

2020年1月17日

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

## 2019年度日本PR大賞が決定

**「パーソン・オブ・ザ・イヤー」**  
**ジェイミー・ジョセフ氏**  
**(ラグビー日本代表ヘッドコーチ)**

**「シチズン・オブ・ザ・イヤー」**  
**一般社団法人「注文をまちがえる料理店」**

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（理事長：畔柳一典）はこのほど、2019年度の日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」にラグビー日本代表ヘッドコーチのジェイミー・ジョセフ氏を、日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に一般社団法人「注文をまちがえる料理店」をそれぞれ選出、表彰することを決定いたしました。

日本PR大賞は、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」として広報・PRの視点から今年もっとも活躍した人を、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」として、地道で独創的な広報・PR活動を通じて地域社会の発展に貢献した個人または組織を、それぞれ表彰するものです。1998年に日本PR大賞として創設して以来、年1回の表彰を行っています。

なお、本年度の日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」両賞の選考・授賞理由については次ページのとおりです。

また、同賞の授賞・表彰式は1月22日（水）、六本木・国際文化会館で開催される「新春PRフォーラム2020」（主催：日本パブリックリレーションズ協会）において行います。

## 日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

■受賞者 ジェイミー・ジョセフ氏（ラグビー日本代表ヘッドコーチ）

### ■授賞理由

ジェイミー・ジョセフ氏は、ラグビー日本代表ヘッドコーチとして、ラグビーワールドカップ2019日本大会において日本代表を初のベスト8に導くなど、指導者として見事な手腕を発揮した。また“ONE TEAM”のスローガンの下、多様性を重んじるラグビー精神を多くの日本人に理解させ、新しいラグビーファンの獲得とラグビーブーム復活に大きく貢献。ヘッドコーチとしての一連の活動は、広報・PRの観点からも多大な功績が認められ、日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」に選出された。



### ■プロフィール

1969年ニュージーランド生まれ。

ラグビーニュージーランド代表としてプレーし、1995年W杯では準優勝チームの一員として活躍。1999年W杯には平尾誠二監督が率いた日本代表チームに選手として出場している。

2003年、指導者に転じ、スーパーラグビー・ハイランダーズのヘッドコーチを経て、2016年に日本代表ヘッドコーチに就任。ワールドカップ2019日本大会では日本代表を初のベスト8に導いた。

## 日本PR大賞 「シチズン・オブ・ザ・イヤー」

■受賞者 一般社団法人「注文をまちがえる料理店」

### ■授賞理由

注文を取るスタッフがみんな認知症の「注文をまちがえる料理店」はPR、外食、認知症介護など各分野のプロフェッショナルが集まり、プロジェクト化されたレストラン型イベント。世界中に共感の輪が広がり各地でイベントが開催されている。たとえ間違えても『ま、いいか』と思えるような寛容さを社会が持つことの重要性を多くの人に気づかせ、また、認知症の方やそのサポーターに対しては、働くことの喜びを与え続けている。プロジェクトを継続的な活動とすべく社団法人化され、多様なパートナーとのコラボレーションにより活動の場を広げている。



### ■プロフィール

NHKでディレクターをしていた小国士朗と介護福祉士の和田行男が番組制作をきっかけに出会い、「注文を間違える料理店」プロジェクトを発足。認知症の方を社会から隔離するのではなく、共存できる寛容な社会をつくる必要があるという気づきが元になっている。

2017年6月のプレオープンイベントからクラウドファンディングを経て、9月に六本木一丁目で第1回目公式イベントを開催。注文を間違えても「ま、いいか」と思ってもらえる寛容なコミュニケーションが起こるイベントに参加したお客様を中心に話題が拡散。町田市との連携による「注文をまちがえるカフェ」、とらや工房で開催された「注文をまちがえる料理店 at とらや工房」から厚生労働省庁舎内の食堂で開催された「注文をまちがえる料理店 at 厚生労働省」など、幅広いコラボレーションを展開している。

また、世界最大級のクリエイティブ・アワードである Cannes Lions をはじめ、国内外で様々な賞を受賞。現在は一般社団法人として活動を開始し、「注文をまちがえる料理店」を中心とした共感の輪を持続的に広げていこうとしている。

## ■日本PR大賞とは

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（PRSJ）が、パブリックリレーションズに対する理解促進を目的に、その基本理念であるパブリックインタレスト（公益）に貢献した人、あるいはそれぞれの分野でPRの視点から活躍した人物を毎年「パーソン・オブ・ザ・イヤー」として選考、顕彰している。また2012年度から協会が公益法人への移行を機に、従来の「パーソン・オブ・ザ・イヤー」とは別に、企業や団体が長年にわたり独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域の発展に寄与し、奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPOを含む）を「シチズン・オブ・ザ・イヤー」として顕彰している。

## ■選考方法

日本パブリックリレーションズ協会会員から受賞候補者・団体の推薦を募り、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」それぞれ10組程度の候補者リストを顕彰委員会で決定。

候補者リストに基づき、当協会会員と外部有識者による投票を行い、その投票結果を踏まえて顕彰委員会内で最終決定する。

## ■推薦基準

### ◇ 日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

話題性や好感度、発想の斬新さなどの観点から、経済活動、文化・スポーツ、社会、教育などの分野で、今年、情報発信など広報・PRの観点から「広報・PRに貢献した」人物

※推薦条件

- ・過去1年間で日本の社会に対し、ポジティブなムーブメントを創出した人

### ◇ 日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」

長年にわたり、一般にはあまり知られていなくとも、

企業や個人で独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域或いは団体の発展に寄与し奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPOを含む）

■ **パーソン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者**（※肩書は受賞当時のもの）

平成 30 年度（2018 年度）

渡辺 直美氏（お笑い芸人）

平成 29 年度（2017 年度）

加藤 一二三氏（棋士）

平成 28 年度（2016 年度）

小池 百合子氏（東京都知事）

平成 27 年度（2015 年度）

リーチ・マイケル氏（ラグビー日本代表主将）

平成 26 年度（2014 年度）

唐池 恒二氏（九州旅客鉄道株式会社（JR九州）代表取締役会長）

平成 25 年度（2013 年度）

佐藤 真海氏（サントリーホールディングス株式会社 CSR推進部・パラリンピアン）

平成 24 年度（2012 年度）

ドナルド・キーン氏（米コロンビア大学 名誉教授）

平成 23 年度（2011 年度）

佐々木 則夫氏（サッカー日本女子代表（なでしこジャパン）監督）

平成 22 年度（2010 年度）

池上 彰氏（ジャーナリスト）

平成 21 年度（2009 年度）（この年までは「日本PR大賞」）

辻井 いつ子氏（ピアニスト 辻井 伸行氏の母親）

平成 20 年度（2008 年度）

該当者なし

平成 19 年度（2007 年度）

東国原 英夫氏（宮崎県知事）

平成 18 年度（2006 年度）

川島 隆太氏（東北大学 加齢医学研究所教授）

平成 17 年度 (2005 年度)

野口 聡一氏 (宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部有人宇宙技術部宇宙飛行士)

平成 16 年度 (2004 年度)

古田 敦也氏 (日本プロ野球選手会会長・ヤクルトスワローズ選手)

特別賞 故 伴 信雄氏 (日本パブリックリレーションズ協会 初代理事長)

平成 15 年度 (2003 年度)

北川 正恭氏 (早稲田大学大学院教授・21 世紀臨調代表・元三重県知事)

平成 14 年度 (2002 年度)

川淵 三郎氏 (前日本プロサッカーリーグ チェアマン)

特別賞 茂木 友三郎氏 (日本醤油協会会長、醤油PR協議会会長)

平成 13 年度 (2001 年度)

野口 健氏 (登山家)

平成 12 年度 (2000 年度)

柳井 正氏 (株式会社ファーストリテイリング 代表取締役社長)

平成 11 年度 (1999 年度)

乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

企業部門賞受賞者 カルロス・ゴーン氏 (日産自動車株式会社 COO)

文化・スポーツ部門賞 松坂 大輔氏 (プロ野球選手 (西武ライオンズ))

社会部門賞受賞者 乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

特別賞 福川 伸次氏 (電通総研所長)

平成 10 年度 (1998 年度)

中坊 公平氏 (弁護士・株式会社住宅金融債権管理機構 代表取締役社長)

企業部門賞受賞者 沢田 秀雄氏 (株式会社エイチ・アイ・エス 代表取締役社長・スカイマークエアラインズ株式会社 会長)

文化・スポーツ部門賞 KONISHIKI (元大関小錦・タレント)

社会部門賞受賞者 向井 千秋氏 (宇宙飛行士・医師)

特別賞 猪狩 誠也氏 (東京経済大学 教授)

■シチズン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

平成 29 年度（2018 年度）

気まぐれ八百屋 だんだんワンコインこども食堂

平成 29 年度（2017 年度）

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

平成 28 年度（2016 年度）

くまモン（熊本県マスコットキャラクター）

平成 27 年度（2015 年度）

いすみ鉄道株式会社

平成 26 年度（2014 年度）

NPO法人富岡製糸場を愛する会

平成 25 年度（2013 年度）

NPO法人本屋大賞実行委員会

平成 24 年度（2012 年度）

大廻 政成氏（財団法人 丸岡町文化振興事業団 常務理事）

## 公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRS J）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会  
〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F  
TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147